

大

会終了後、主催した羽村市青少年対策地区委員会連絡協議会の神田会長にお話を伺いました。

「このイベントを始めた経緯を教えてください。近年、地区委員会主催の中全体の行事が無く、「なにかやりたいね」と話していました。そんな折に小作地区で行っていた水でつぼうの話が出て、面白そうだからやってみよう、となりました。」

「初めての水でつぼう大会、やってみてどうでしたか？」

準備から運営まですべて地区委員会で分担して実施したため大変でしたが、子どもたちがとても楽しんでくれたのでやってよかった、というのが一番の感想です。



「仰る通り、子どもたちは元気いっぱい楽しんでいましたね」

地区ごとではなく、くじ引きでチームを決めたので最初はどうかと不安でしたが、試合が進むうちに馴染んでいっていました。地区をまたいでみんな混じって、というのはこれまでの活動ではあまりありませんでしたが、いろいろな子と知り合える機会にしたい、純粋に楽しんでもらいたい、と考えて決めました。

終盤の試合では、「高校生を倒せ！」とチームワークを発揮していました。いつもは人に向けてちゃだめだよ、と言われるものだと思います。広い場所で遊べるのはとても楽しかったです。



「日本航空高校石川の高校生も楽しんでくれていましたね」

高校生には「この機会にいっぱい子どもたちと話をしてみたい」とお願いしていました。日頃、高校生と遊ぶ機会はありませんが、子どもたちは最初ドキドキしていたようでしたが、慣れてからはやりたい放題になっていて、それを高校生が受け入れてくれたのでありがたかったです。先生も高校生も「楽しかった、来てよかった」と言ってくれていたのが非常にうれしかったです。

「これを機に、さまざまな繋がりが広がっていくといいですね」

今の子どもたちは、塾や習い事などで平日も休日も忙しいと思います。そんな中で日帯と違うことを、いろいろな学校の子とみんなできるといことはよかったのではないかと感じています。そして大きくなった時に、自分たちも子どもの時にこういうことをやってもらったな、と思い出してもらえるとうれしいです。さらに今度は自分が子どもにもさまざまな場を提供する側になってほしいです。

また、地区委員会だけでなく、各下校の旗振りやPTAの活動を通して、知らない大人が知っている大人になれば、子どもに安心が生まれます。何かでつながりを持った、という経験は子どもを支えていくと思います。

子どもだけでなく、大人のつながりも一緒です。万が一のことが子どもにあつたときにどうするか、知っている顔同士だと安心して話せるし、取り組みます。親同士のコミュニティづくりにも今日のようないきいきな活動が生まれると思っています。

「今後は、どんなことを目指して活動していきたいですか」

地区委員会はみんな、子どものためにさまざまな事業に取り組んでいます。そんな中で、最近「子どもの笑顔がみんなをつなぐ」ということを感じるようになりました。子どものためにと思って取り組んだ結果、子どもの笑顔がかけ橋になって大人同士もつないでくれているんだな、ということに気づきました。

役員になると負担が大きいという部分はどうしても目立っていますが、現状の地区委員会の活動内容を今後も続けていく必要はないと思っています。大変なら変えていくといいと思います。最適なかたちを考えて、続けていくことが必要です。地域で子どもを育てるといふ地区委員会の出発点を今後もつないでいけるようにしたいです。



▲神田 順恵さん

市内で飲食店を営むかたわら、羽村市青少年対策富士見地区委員会の会長を約7年務め、今年度は羽村市全体の青少年対策地区委員会を束ねる連絡協議会会長にも就任した。

■富士見地区で実施してきたイベント  
学校キャンプ、ウォークラリー、凧作りと凧上げなど

当日の様子を「YouTube 羽村市公式動画チャンネル」で公開しています！

右の二次元コードから、ぜひご覧ください！



▲羽村市公式動画チャンネル (YouTube)



## 参加した子どもたちの声

めっちゃ楽しかった！高校生のお兄さんとお姉さんがたくさん遊んでくれて楽しかった！

勝てなかったけど楽しかった

また来年も絶対やりたい、来年の大会のためにすぐ水が入れるような水でつぼうを買ってもらう予定！

またやりたい！

高校生のお兄さん、お姉さんが優しくリーダーシップをとってくれて、チームで協力してできたのが楽しかった

Q. 今日のように大勢の友達で集まってやりたいことはありますか？

鬼ごっこ、宝探しゲーム、花火、雪遊び、ドッジボール、キャンプファイヤー…ほかにもたくさん！